

事例から考える教学IRデータの活用

真鍋 亮(松山大学 入学広報部入学広報課 係長)

講師略歴

平成15年4月から松山大学に事務職員として勤務し、学務課、図書館情報サービス課、キャリアセンター課、薬学部事務室、学生課を経て、令和3年度から現職。広島大学教育学研究科博士課程後期修了。博士(教育学)。専門は高等教育学、教育経済学。令和元年4月から3年間、学内での教学IRプロジェクトを実施。

プログラム概要

大学教育改革に関する近年の政策的動向を見ると、教学IR体制を確立させる事と共に、学修成果の可視化の推進が強調される傾向にあります。

これらの政策は、学修成果を媒介とした「高校と大学」「大学と社会」の接続を前提としており、大学教育を一体的な教育制度として俯瞰する視点が、ますます重要になってきていると考えます。それに伴い学修成果の把握を行う大学は年々増加しており、学修成果の可視化の手段として、外部の標準化されたテスト等の利活用が拡大しています。

そこで、本プログラムでは、教学IRデータ活用の事例を交えながら「高校と大学」「大学と社会」の接続から得られる大学教育の俯瞰的視座、及び学修成果の可視化における課題について、講義とグループワークを通じて参加者のみなさまと共に考える機会となる事を目指します。

みなさまのご参加をお待ちしています。

準備物・事前課題

「高校」「大学」「社会」それぞれの場面での成果指標はどのようなものがあるか、考えてきてください(例えば、高校評定平均値、大学 GPA、ジェネリックスキル、就職先、所得など)。

主な受講対象者

教学IRに関心のある教職員

到達目標

1. 教学IRデータの活用事例を知る事ができる。
2. 「高校」「大学」「社会」の接続関係を理解することができる。
3. 学修成果の可視化における課題について説明できる。

日時

8月26日(金)15時15分～17時15分